



介護 みんなで支える介護保険 No146

問 保健福祉課 介護保険係
☎476-1111(136)

◆認知症について正しい知識を持ちましょう part 4

《認知症の症状 ～中核症状～》

脳の細胞が壊れることによって直接起こる症状が記憶障害、見当識障害、理解・判断力の低下、実行機能の低下など中核症状と呼ばれるものです。これらの中核症状のため周囲で起こっている現実を正しく認識できなくなります。

本人がもともと持っている性格、環境、人間関係などさまざまな要因がからみ合って、うつ状態や妄想のような精神症状や、日常生活への適応を困難にする行動上の問題が起こってきます。これらを行動・心理症状と呼ぶことがあります。

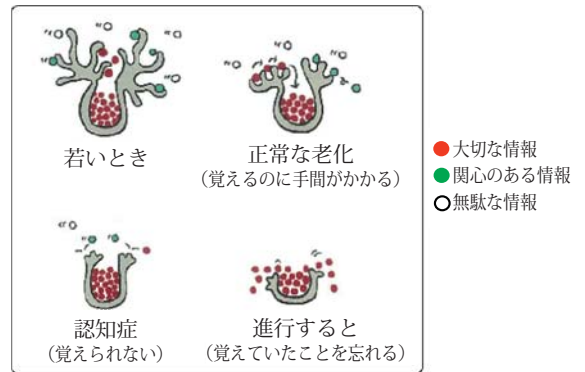
このほか、認知症にはその原因となる病気によって多少の違いはあるものの、さまざまな身体的な症状も出てきます。とくに血管性認知症の一部では、早い時期から麻痺などの身体症状が合併することもあります。アルツハイマー型認知症でも、進行すると歩行が拙くなり、終末期まで進行すれば寝たきりになってしまう人も少なくありません。

中核症状って何だろう？

その1 『記憶障害』

人間には、目や耳が捕らえたたくさんの情報の中から、関心のあるものを一時的に捕らえておく器官（海馬、仮にイソギンチャクと呼ぶ）と、重要な情報を頭の中に長期に保存する『記憶の壺』が脳の中にあると考えてください。

いったん『記憶の壺』に入れば、普段は思い出さなくても、必要なときに必要な情報を取り出すことができます。しかし、年をとるとイソギンチャクの力が衰え、一度にたくさんの情報を捕まえておくことができなくなり、捕まえても、『壺』に移すのに手間取るようになります。『壺』の中から必要な情報を探し出すことも、ときどき失敗します。年をとってもの覚えが悪くなったり、ど忘れが増えるのはこのためです。それでもイソギンチャクの足はそれなりに機能しているので、二度三度と繰り返しているうち、大事な情報は『壺』に納まります。ところが、認知症になるとイソギンチャクの足が病的に衰えてしまうため『壺』に納めることができなくなります。新しいことを記憶できずに、さきほど聞いたことさえ思い出せないのです。さらに、病気が進行すれば『壺』が溶け始め、覚えていたはずの記憶も失われていきます。



出典：認知症サポーター養成講座標準教材（特定非営利活動法人地域ケア政策ネットワーク 全国キャラバンメイト連絡協議会作成）

◆大崎町の介護保険事業の報告

介護保険事業の実績についての報告（利用者の1割負担を除いた大崎町の支払い分）

第1号被保険者（65歳以上の人）		4, 9 1 3人	平成26年11月末日 現在
要介護（支援）認定者		9 7 7人	
給 付 実 績	在宅介護サービス費	4 0, 2 7 5, 7 6 9円	平成26年10月の 給付実績
	施設介護サービス費	6 1, 2 6 5, 3 4 0円	
	その他（介護予防サービス費も含む）	3 3, 2 4 8, 3 8 5円	
	介護サービス費 合計	1 3 4, 7 8 9, 4 9 4円	